

一般演題 治療装置・運用 OP7-5
アンケート調査から見える高気圧酸素療法の有効性

○ 亀山沙矢香¹⁾ 宮城京子¹⁾ 饒平名かおり¹⁾
眞榮城智子¹⁾ 砂川昌秀²⁾ 上江洲安之²⁾
前原博樹³⁾ 梅村武寛^{3,4)}

- 1) 琉球大学病院看護部
- 2) 琉球大学病院臨床工学室
- 3) 琉球大学病院高気圧治療部
- 4) 琉球大学病院救急部

【背景と目的】

高気圧酸素治療（以下 HBO）は幅広い疾患に適応があり、その治療効果の報告は散見されるが、患者自身が治療効果の評価した報告は乏しい範囲ではない。「患者の思い」に基づいた治療効果が得られているのか不明瞭であった。今回、医療者側の視点ではなく“患者視点で考える治療効果”についてアンケート調査を行ったので報告する。

【対象と方法】

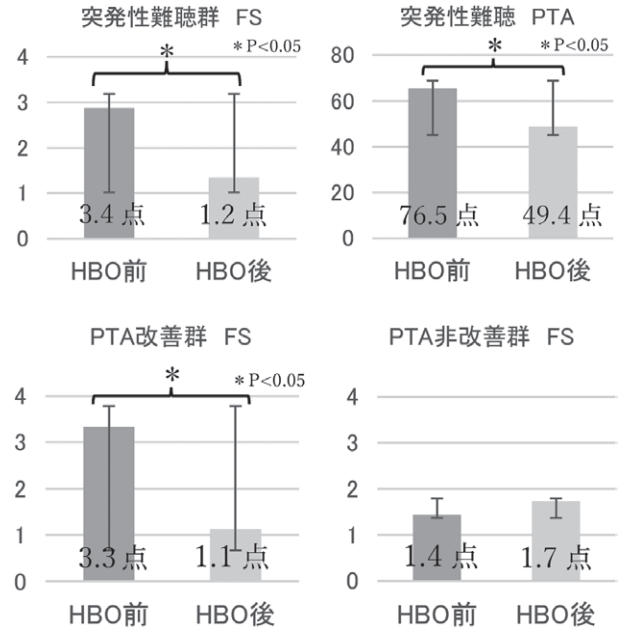
2022年5月～2023年3月の期間において、HBO前後の回答が得られた169人を対象とした。初診オリエンテーション時に、患者へHBO前後の治療効果アンケートへの回答を説明、依頼した。アンケート内容はHBO前後における疼痛を含む身体症状を評価し、その評価指数はフェイススケール（以下 FS）0～5点を用いた。対応のあるt検定を用い、HBO前後のFSを統計学的に比較検討した。また、当院HBOにおいて代表的疾患を6群に分けて比較検討した。突発性難聴においては純音聴力検査（以下 PTA）と比較検討し、さらにPTA改善群と非改善群についても比較検討した。突発性難聴群以外の5群においても症状との関係について比較検討した。

【結果と考察】

対象患者において、HBO前後のFS平均値は2.1点から1.0点へ有意に改善した。

突発性難聴群はFS平均値3.4点から1.2点、PTAの平均値76.5点から49.4点へとFS、PTAともに有意に改善が見られた。

PTA改善群と非改善群を比較したところ、改善群においてはFS平均値3.3点から1.1点へ有意に改善しているが、PTA非改善群は平均値1.4点から1.7点と有意差はなかった。このことから、PTAと相関してFSも有意に改善していることが分かる。



難治性潰瘍群においてはFS平均値2.7点から1.2点へ、骨髄炎群においては1.6点から0.6点へと、ともに病状改善に伴いFSも改善している。HBO前後で有意差を認めなかった3群の理由として、HBO併用照射群は、HBO前より症状に乏しく、加えて放射線宿酔や化学療法の副作用の影響が強いのではないかと考える。放射線障害群においては、術後の影響や癌治療後の副作用など、多くの症状を有しているためと考える。イレウス群に関しては、FS平均値1.5点から0.69点と改善しているが、症例数が少ないため有意差を認めなかったのではないかと考える。

